



平成18年10月10日

各位

## MS 分析用血漿前処理自動化システム開発の完了と 受注販売開始に関するお知らせ

上場会社名	プレジジョン・システム・サイエンス株式会社 (コード番号 7707)
本社所在地	千葉県松戸市上本郷 88 番地
問い合わせ先	取締役業務本部長 秋本 淳
T E L	047-303-4800
U R L	<a href="http://www.pss.co.jp">http://www.pss.co.jp</a>

この度、プレジジョン・システム・サイエンス株式会社（代表取締役社長：田島秀二、以下 PSS）は、本年1月より取り組んで参りました株式会社メディカル・プロテオスコープ（代表取締役社長：松山哲人、以下 MPS）<sup>\*1</sup>との MS 分析用血漿前処理自動化システム共同開発において所定の成果を収め、自動化システム開発を完了し、MPS との合意に基づいて、本システムを一般向けに受注生産による販売を開始いたします。

『MS』とは『mass spectrometry』の略であり、質量分析（法）<sup>\*2</sup>を意味します。

現在、ヒトの臨床サンプルに対する MS 分析は、疾患特異的な新規バイオマーカーの探索、治療薬の奏功や副作用マーカーの探索、あるいは創薬標的分子の探索などにおいて盛んに利用されており、最終的には診断薬・医薬品の開発やテーラーメイド医療の実現につながるものと考えられております。

本共同開発の完了は、PSS がこれまで培ってきた自動化システム技術と、MPS による MS を利用した臨床プロテオーム解析技術及び前処理技術との融合による成果であり、血漿などの臨床サンプルを用いる MS 分析の煩雑な前処理における生産性と再現性を向上させる画期的な新規自動化システムを実現できたものと考えております。

本共同研究で開発した新規システムは、特許出願中の新発明1件を含む新技術を搭載したもので、MS 分析の前処理のみならず、タンパク質サンプルを取り扱う様々なプロテオミ

クス研究におけるサンプルプレパレーションの自動化システムとしての応用を期待しております。



「ProScope」外観

受注生産・販売を予定している標準的なシステム（製品名「ProScope」）は、8検体までの同時処理が可能で、MS分析の前処理に必要な、メジャータンパク質除去から、限外ろ過による濃縮・バッファ置換等の一連の行程をシームレスに自動化できるものです。この標準システムの予定販売価格は800万円、初年度販売予想20台を見込んでおります。

なお、現時点では、本システムの正確な販売見通しを算出することは難しいため、具体的に本年度の決算見通しに影響を与えるような段階になりましたら、速やかに業績見通しの修正等を発表する予定であります。

以 上

<ご参考>

\* 1 株式会社メディカル・プロテオスコープ

最先端のプロテオーム解析技術とバイオインフォマティクスを融合させ、ヒト臨床サンプルを用いた定量解析に基づき、薬剤応答性や疾患特異的なタンパク質群の特定と疾患メカニズムの解明を目的として設立された創薬基盤技術型バイオベンチャー企業。

会社名	株式会社メディカル・プロテオスコープ
所在地	東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル 17 階
設立	平成 14 年 11 月
資本金	1,368 百万円 (2006 年 9 月現在)
代表者	代表取締役社長 松山 哲人
事業内容	臨床プロテオミクスによる医薬品開発

\* 2 質量分析(法)とは

質量分析計は、試料をレーザー照射、イオン化スプレー法などによりイオン化し、そのイオンを質量と電荷に応じて分離・検出する分析技術であり、合成化合物や生体内に存在するタンパク質などの存在量、分子構造解析等に活用されています。

例えば、がんや生活習慣病など、ある疾患が発症した場合、あるいは病態の進行に伴って疾患特異的に発現、変動するタンパク質を組織や血液中から抽出し質量分析法による高感度な解析技術により特定することが出来れば、それをバイオマーカーとして、特定疾患の発症の有無、早期発見、病態の進行のモニタリング、予後モニタリング、腫瘍悪性度、転移性などの診断に生かすことが出来る可能性があります。現在、がんセンターをはじめ様々な研究機関で、質量分析計を用いた疾患特異的分子の検出・同定研究が盛んに行われています。

以 上